

研究機関：広島大学

研究課題名	潰瘍性大腸炎に対する大腸全摘術への Hand-assisted Laparoscopic Surgery (HALS) の検討
研究責任者名	広島大学病院 感染症科 教授 大毛宏喜
研究期間	(倫理委員会承認後) ～平成 28 年 12 月
対象者	2008 年 1 月から 2015 年 8 月の間に、広島大学病院消化器外科で潰瘍性大腸炎に対して手術治療（大腸全摘術・回腸囊肛門吻合術）を受けられた患者。
意義・目的	結腸直腸外科領域では腹腔鏡手術手技が低侵襲手術として容認されてきています。潰瘍性大腸炎の手術では大腸全摘術および回腸囊肛門吻合術を施行するため腹腔鏡手術では長時間の手術となるのが欠点としてあげられます。一方で潰瘍性大腸炎患者では若年者が多く美容的な意義でも腹腔鏡手術は求められる手技となってきました。腹腔鏡下に腹腔内に片手を挿入して手術操作を行う Hand-assisted Laparoscopic Surgery (HALS) は低侵襲かつ手術時間を短縮可能な手技として知られており 2008 年以降、当科でも HALS を用い大腸全摘術を施行しており、その導入に伴う効果を検証することが目的です。
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、年齢、病歴期間、術前治療、血液検査（白血球数、赤血球数、アルブミン値、CRP）、手術時間、出血量、術後合併症です。 (個人を特定可能な情報は解析に用いません)
共同研究機関	なし
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 T e l : 082-257-5468 広島大学病院消化器外科 助教 嶋田徳光（担当者）